

第88期
中間報告書

平成29年4月1日～平成29年9月30日

Micro&Fine Technology

【 経営理念 】

私たちは、お客様にとって価値のある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献します。

私たちは、情報を重視し、世界の変化にすばやく適応するため、技術・知識・行動の革新に挑戦し続けます。

私たちは、利益ある発展と、創造性豊かでいきいきとした企業風土の確立を目指します。

当社の経営方針について

当社はステンレス鋼線並びに金属繊維（ナスロン）を主力製品とし、長年に亘り培ってきた技術力と新しい技術分野への挑戦により、お客様にとって価値ある商品とサービスの提供を通じて社会の発展に貢献することを経営の基本理念といたしております。

また、株主の皆様並びにお取引先など、内外の関係先からの信頼と期待に応えるため、常に世の中の変化に迅速に対応できる柔軟な経営体制の構築を通じて、安定した収益基盤の維持・拡大を図るべく事業活動を展開してまいります。

株主の皆様へ

日本精線は、ステンレス鋼線のトップメーカーとして、次世代素材、技術開発をリードし続けています。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに、当社第88期中間期（第2四半期累計期間、平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成29年12月



代表取締役社長

新貝 元

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や所得・雇用環境の改善に支えられ、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、米国の政策動向や世界的な地政学的リスクの高まりなどにより、景気の先行きは依然として不透明な状況となっております。

当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という。）が属するステンレス鋼線業界では、自動車関連の需要が好調であったため、業界出荷数量は、前年同期比増加となりました。また、LME ニッケル価格は緩やかな上昇となりました。

このような状況の中、当社グループでは、連結経常利益40億円以上、連結経常利益率（ROS）10%以上などを経営目標とする『第13次中期計画（SR17）』（最終年度平成30年3月期）の達成に向け、収益の一段の向上に鋭意取り組んでまいりました。

当期間中の売上高につきましては、主力のステンレス鋼線部門は、販売数量が前年同期に比べ増加したことに加え、ニッケル価格変動に伴う販売価格引き上げ効果もあり増収となりました。また、金属繊維部門につきましても、ナスロンフィルターが堅調に推移し、超精密ガスフィルター（ナスクリン）も引き続き好調に推移したため増収と

なりました。これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は186億6百万円（前年同期比21.8%増）となりました。

損益につきましては、高機能・独自製品が好調に推移したことに加え、販売数量の増加に伴う工場操業度の改善などにより営業利益は22億16百万円（前年同期比107.3%増）、経常利益は22億1百万円（同107.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億43百万円（同102.2%増）と前年同期比大幅増益となりました。

なお、中間配当につきましては、当期の業績を踏まえ、前回予想（5月11日）より2円50銭増額し、1株につき10円とさせていただきます。

※ 本年10月1日を効力発生日とする株式併合を実施いたしました。今回の中間配当は、その基準日が「本年9月30日」となっているため、株式併合前の株数をベースに、1株当たり10円で実施させていただきます。

次に部門別の概要についてご報告申し上げます。

ステンレス鋼線部門

建材関連需要はやや低調に推移しましたが、自動車関連需要が好調であったことなどにより、販売数量が前年同期に比べ増加したことに加え、ニッケル価格変動に伴う販売価格引き上げ効

果もあり、ステンレス鋼線の売上高は前年同期に比べ増収となりました。

また、海外現地法人であるTHAI SEISEN CO., LTD.につきましても、販売数量の増加などにより、売上高は前年同期比増収となりました。

これらの結果、ステンレス鋼線部門の売上高は154億93百万円(前年同期比21.8%増)となりました。

金属繊維(ナスロン)部門

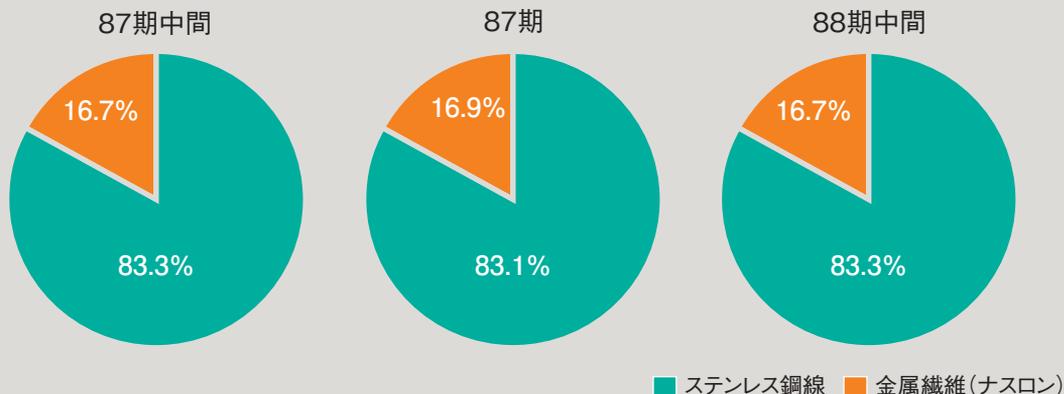
ナスロンフィルターは、ポリエステルフィルム向けに加え、化合繊維向けが堅調に推移したため

増収となりました。加えて、超精密ガスフィルター(ナスクリーン)も韓国や台湾での半導体メーカーを中心とした設備投資が引き続き好調に推移したため増収となりました。

また、海外現地法人である耐素龍精密濾機(常熟)有限公司につきましても、中国国内向けなど販売が堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比で増収となりました。

これらの結果、金属繊維部門の売上高は31億13百万円(前年同期比22.1%増)となりました。

部門別売上構成比(連結)



今後の見通しといたしましては、個人消費の回復の遅れに加え、中国など新興国経済の減速や世界経済の不確実性の増大などにより、景気の先行きは依然として不透明な状況であり、当社グループの経営環境は引き続き厳しい状況で推移するものと思われま

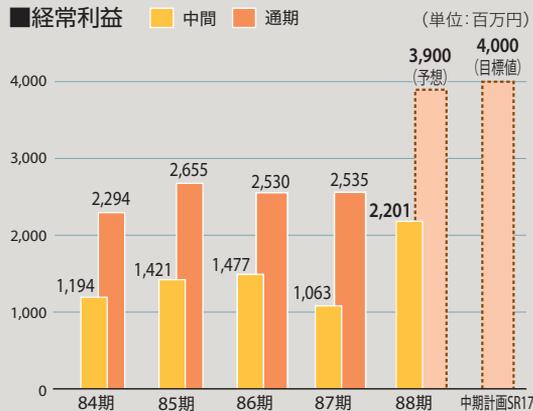
す。また、当社グループの主力製品であるステンレス鋼線は、中国や韓国のステンレス鋼線メーカーとの競争激化による収益低下などの懸念があり、加えてニッケル価格に起因する原材料価格の変動リスクなど厳しい環境下に置かれております。また、金属繊維（ナスロン）も化合繊維向けなどの

一般汎用製品については競争が激しくなっておりま

す。このような経営環境に対応すべく、当社グループでは平成30年3月期を最終年度とする「第13次中期計画(SR17)」の経営目標達成に向け、引き続き課題に取り組んでまいります。

具体的には、ステンレス鋼線部門において、販売面では国内外市場に対し、ばね用材や極細線をはじめとする高機能製品、自動車向け耐熱ポルト用材や高合金線などの独自製品の拡販に加え、新用途製品の立ち上げを推進してまいります。一方、生産面では需要家のグローバル展開に

業績の推移(連結)



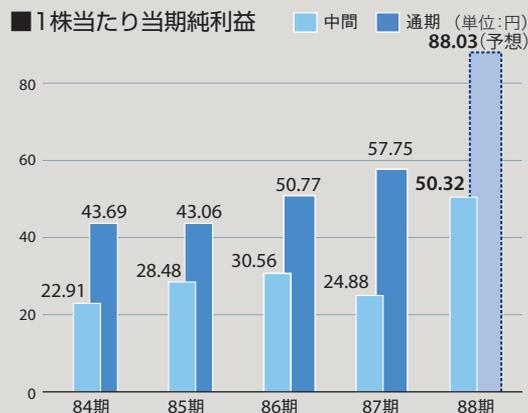
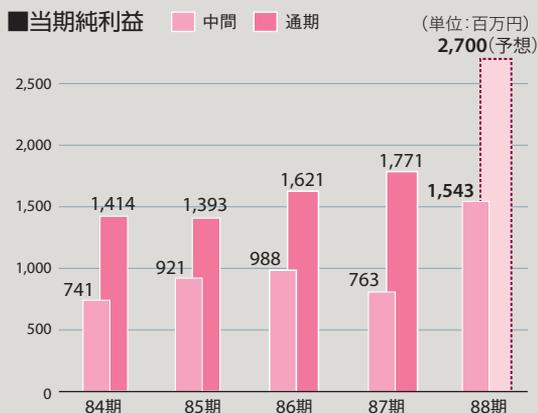
対応した海外2工場の拡張や、東大阪・枚方工場リニューアルの推進等により、引き続き国内外の最適生産体制の構築を進めてまいります。開発面では当社グループの保有する技術力・ノウハウに大同特殊鋼グループの技術力を結集することによる新製品開発の強化や新規事業の確立などに引き続き取り組んでまいります。

金属繊維部門では、中国・韓国の現地法人の活用等による海外市場への拡販、また、国内でもより高機能化・高精度化する需要に応えるべく技術開発ならびに生産能力向上に取り組んでまいります。

さらには、環境・医療・エネルギー関連など幅広い分野での新製品開発などにも鋭意取り組んでまいります。

以上により、収益の一段の向上を図るとともに、事業のグローバル化推進や高度化・多様化する顧客ニーズへの対応などにより、『さらなる企業価値の向上』を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



※平成29年10月1日を効力発生日とする株式併合を実施しましたが、88期につきましては、比較可能とするため、株式併合前に換算した値を記載しています。

連結決算

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科 目 | 期 別 | 当第2四半期末 (平成29年9月30日現在) | 前第2四半期末 (平成28年9月30日現在) | 前期末 (平成29年3月31日現在) |
|---------------|-----|---------------------------|---------------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | | | |
| 流動資産 | | 26,704 | 22,217 | 24,986 |
| 現金及び預金 | | 12,924 | 10,194 | 12,311 |
| 受取手形及び売掛金 | | 8,070 | 6,505 | 7,181 |
| 商品及び製品 | | 1,616 | 1,534 | 1,427 |
| 仕掛品 | | 2,604 | 2,259 | 2,507 |
| 原材料及び貯蔵品 | | 1,068 | 1,273 | 1,194 |
| 繰延税金資産 | | 257 | 239 | 247 |
| その他 | | 162 | 210 | 116 |
| 固定資産 | | 13,131 | 12,382 | 12,321 |
| 有形固定資産 | | 10,609 | 9,930 | 9,812 |
| 建物及び構築物(純額) | | 3,536 | 3,544 | 3,505 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | | 4,479 | 4,320 | 4,351 |
| 土地 | | 1,577 | 1,573 | 1,573 |
| リース資産(純額) | | 2 | 3 | 2 |
| 建設仮勘定 | | 687 | 208 | 77 |
| その他(純額) | | 327 | 280 | 300 |
| 無形固定資産 | | 376 | 384 | 380 |
| 投資その他の資産 | | 2,145 | 2,067 | 2,128 |
| 資産合計 | | 39,835 | 34,599 | 37,307 |

*財務諸表は以下に基づき作成しております。

①当第2四半期累計期間(末)及び前第2四半期累計期間(末)は四半期連結財務諸表規則に基づき、それぞれ作成しております。

②記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

| 科 目 | 期 別 | 当第2四半期末 (平成29年9月30日現在) | 前第2四半期末 (平成28年9月30日現在) | 前期末 (平成29年3月31日現在) |
|--------------|-----|---------------------------|---------------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | | 7,642 | 5,550 | 6,475 |
| 支払手形及び買掛金 | | 4,603 | 3,345 | 4,097 |
| 短期借入金 | | 520 | 494 | 611 |
| 未払法人税等 | | 765 | 437 | 622 |
| 賞与引当金 | | 591 | 574 | 561 |
| 役員賞与引当金 | | — | — | 30 |
| その他 | | 1,160 | 699 | 552 |
| 固定負債 | | 4,675 | 4,129 | 4,793 |
| 長期借入金 | | 430 | — | 570 |
| リース債務 | | 2 | 2 | 2 |
| 役員退職慰労引当金 | | 36 | 92 | 103 |
| 環境対策引当金 | | 47 | 39 | 47 |
| 退職給付に係る負債 | | 4,159 | 3,994 | 4,069 |
| 負債合計 | | 12,317 | 9,680 | 11,268 |
| 純資産の部 | | | | |
| 株主資本 | | 27,520 | 25,369 | 26,177 |
| 資本金 | | 5,000 | 5,000 | 5,000 |
| 資本剰余金 | | 5,442 | 5,442 | 5,442 |
| 利益剰余金 | | 17,923 | 15,770 | 16,579 |
| 自己株式 | | △ 845 | △ 843 | △ 844 |
| その他の包括利益累計額 | | △ 211 | △ 635 | △ 342 |
| その他有価証券評価差額金 | | 64 | △ 8 | 52 |
| 繰延ヘッジ損益 | | — | — | 0 |
| 為替換算調整勘定 | | 8 | △ 280 | △ 67 |
| 退職給付に係る調整累計額 | | △ 283 | △ 345 | △ 327 |
| 非支配株主持分 | | 209 | 184 | 203 |
| 純資産合計 | | 27,518 | 24,919 | 26,038 |
| 負債純資産合計 | | 39,835 | 34,599 | 37,307 |

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 当第2四半期(累計) (平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで) | 前第2四半期(累計) (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで) | 前期 (平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで) |
|----------------------|----|---|---|-------------------------------------|
| 売上高 | | 18,606 | 15,274 | 31,799 |
| 売上原価 | | 14,861 | 12,746 | 26,257 |
| 売上総利益 | | 3,745 | 2,527 | 5,542 |
| 販売費及び一般管理費 | | 1,529 | 1,458 | 2,981 |
| 営業利益 | | 2,216 | 1,069 | 2,560 |
| 営業外収益 | | 47 | 23 | 90 |
| 営業外費用 | | 62 | 29 | 115 |
| 経常利益 | | 2,201 | 1,063 | 2,535 |
| 特別利益 | | 0 | 43 | 52 |
| 特別損失 | | — | 0 | 0 |
| 税金等調整前四半期(当期)純利益 | | 2,201 | 1,106 | 2,586 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 688 | 375 | 885 |
| 法人税等調整額 | | △33 | △33 | △74 |
| 四半期(当期)純利益 | | 1,546 | 764 | 1,775 |
| 非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益 | | 2 | 0 | 4 |
| 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 | | 1,543 | 763 | 1,771 |

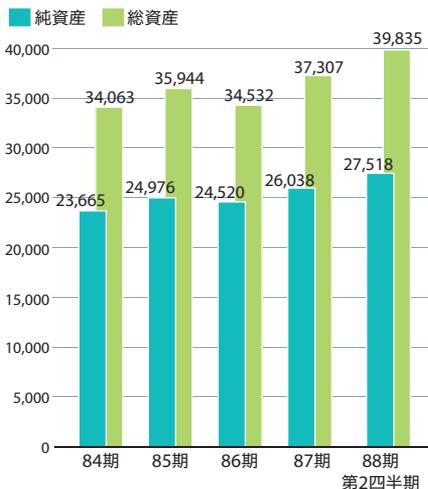
四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 当第2四半期(累計) (平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで) | 前第2四半期(累計) (平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで) | 前期 (平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで) |
|----------------------|----|---|---|-------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 1,838 | 1,656 | 3,794 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △825 | △641 | △1,236 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △440 | △400 | 67 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | 37 | △86 | 13 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | | 610 | 528 | 2,639 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | | 12,231 | 9,592 | 9,592 |
| 現金及び現金同等物の四半期末又は期末残高 | | 12,842 | 10,120 | 12,231 |

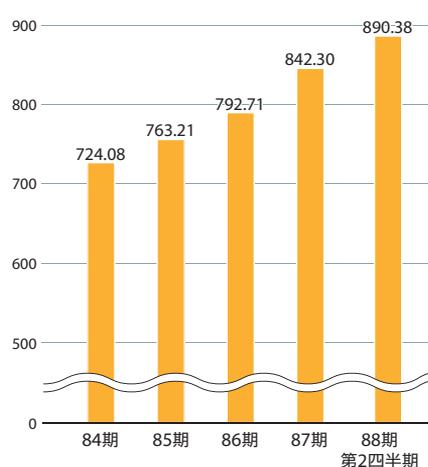
■総資産・純資産(連結)

(単位:百万円)



■1株当たり純資産(連結)

(単位:円)



※株式会社併合前の株数で計算しております。

会社の概況 (平成29年9月30日現在)

会社概要

商号 日本精線株式会社
(英文名 NIPPON SEISEN CO., LTD.)
設立 昭和26年6月30日
資本金 50億円
従業員数 573名
ホームページ <http://www.n-seisen.co.jp/>
アドレス

当社グループの主な営業品目

ステンレス鋼線、ステンレス鋼直棒・異形線、高合金線、チタン線、金属繊維(ナスロン)及びその加工品、金属繊維焼結フィルター、半導体用超精密ガスフィルター、ダイヤモンドダイス、溶接棒、その他金属線

当社グループの主要な事業所

■当社

本社 大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号(興銀ビル)
支店・営業所 大阪(大阪市中央区)・東京(東京都中央区)
名古屋(名古屋市中区)・九州(福岡市中央区)
工場 枚方(大阪府枚方市)・東大阪(大阪府東大阪市)

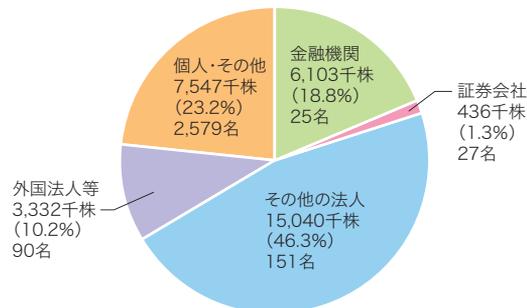
■主な子会社

| 会社名 | 出資比率 | 所在地 |
|---------------------------|------|--------------|
| THAI SEISEN CO., LTD. (*) | 95% | タイ国サムットプラカーン |
| 耐素龍精密濾機(常熟)有限公司(*) | 80% | 中国江蘇省常熟 |
| 大同不銹鋼(大連)有限公司 | 74% | 中国遼寧省大連 |

(*)は連結対象子会社

株式の状況

- 発行可能株式総数 82,800,000株 (※1)
- 発行済株式の総数 32,461,468株 (※2)
- 当第2四半期末株主数 2,872名
- 所有者別株式分布状況



※1 平成29年10月1日を効力発生日とする株式併合(5株を1株に併合)により、当中間報告書作成時点では25,000,000株になっております。

※2 平成29年10月1日を効力発生日とする株式併合(5株を1株に併合)により、当中間報告書作成時点では6,492,293株になっております。

■大株主

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|----------------------------|----------------------|--------------------|
| 大同特殊鋼株式会社 | 13,103 ^{千株} | 42.72 [%] |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,822 | 5.94 |
| 株式会社みずほ銀行 | 1,086 | 3.54 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 553 | 1.80 |
| 特殊発條興業株式会社 | 532 | 1.73 |
| 前尾和男 | 482 | 1.57 |
| MSIP CLIENT SECURITIES | 457 | 1.49 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) | 431 | 1.40 |
| 株式会社池田泉州銀行 | 401 | 1.30 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 338 | 1.10 |

(注)持株比率は自己株式(1,790,926株)を控除して計算しております。

役員

取締役及び監査役

(*印の取締役は執行役員を兼務しております)

| | | |
|---------|-------|-----|
| 代表取締役社長 | 新 貝 | 元 |
| *取締役 | 川 端 泰 | 司 |
| *取締役 | 秋 田 康 | 明 |
| 取締役 | 花 井 | 健 |
| 取締役 | 関 | 公 彦 |
| 取締役 | 滝 沢 正 | 明 |
| 取締役 | 石 濱 辰 | 哉 |
| 常勤監査役 | 浮 田 昌 | 秀 |
| 常勤監査役 | 中 川 幸 | 朋 |
| 監査役 | 花 輪 | 博 |
| 監査役 | 笹 山 | 真 一 |

執行役員

| | | |
|--------|-------|---|
| 常務執行役員 | 川 端 泰 | 司 |
| 常務執行役員 | 西 田 成 | 夫 |
| 常務執行役員 | 富 永 誠 | 司 |
| 執行役員 | 安 部 明 | 夫 |
| 執行役員 | 大 間 英 | 之 |
| 執行役員 | 秋 田 康 | 明 |
| 執行役員 | 吉 田 | 厚 |
| 執行役員 | 津 田 俊 | 之 |
| 執行役員 | 加 藤 泰 | 資 |
| 執行役員 | 高 橋 一 | 朗 |
| 執行役員 | 岩 城 泰 | 王 |
| 執行役員 | 小 林 | 真 |

株主メモ

| | |
|-----------|---|
| 決算期日 | 毎年3月31日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会 3月31日 その他必要のあるときは、取締役会で決議し、あらかじめ公告する一定の日 |
| 剰余金配当の基準日 | 期末 毎年3月31日 中間 毎年9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 |
| 公告掲載方法 | 日本経済新聞に掲載 |
| 証券コード | 5659 |
| 郵便物送付先 | 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 電話お問い合わせ先 | ●電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) ●インターネット https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html |

単元株式数の変更および株式併合について

当社は、2017年10月1日をもって、単元株式数の変更および株式併合を実施しました。

- 単元株式数の変更
変更の内容：単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。
- 株式併合
(1) 併合の内容：当社普通株式につき、本年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主様の所有株式数について5株を1株の割合で併合しました。
(2) 併合の影響：株式併合により、株主様のご所有株式は株式併合前の5分の1となりますが、1株当たりの純資産額は株式併合前の5倍となり、株式市況の変動等の要因を別にすれば、株主様のご所有の当社株式の資産価値に変動はございません。
(3) 端数株式の処分：株式併合の結果、1株に満たない端数株式が生じた場合、会社法の定めにもとづき、当社が一括して処分し、その処分代金を第88期中間配当金に合算してお支払いいたします。
- 株主優待制度の変更
単元株式数を1,000株から100株へ変更したことに伴い、下記の通り株主優待制度を変更いたしました。

| | |
|-----|--|
| 変更前 | 3月末時点で株主名簿に記載又は記録されている当社株式1単元(1,000株)以上を保有している株主にQUOカード2,000円分贈呈 |
| 変更後 | 3月末時点で株主名簿に記載又は記録されている当社株式1単元(100株)以上を保有している株主にQUOカード2,000円分贈呈 |

なお、平成30年3月31日の基準日に当社株主名簿に記載又は記録された株主様への優待より実施いたします。

NIPPON SEISEN CO., LTD.

